

小林中学校新体操部が 全日本ジュニア新体操選手権大会へ



3年生で主将の大出水さんは、大会に向けて「九州代表として気を引き締め、日頃の練習の成果を発揮してきます」と意気込みました

11月2日、群馬県で11月19日に開催される全日本ジュニア新体操選手権大会へ出場する小林中新体操部（大出水悠主将）が、市長に出場を報告しました。チームは9月30日と10月1日に福岡県で開催された九州地区予選会を勝ち抜き、全国大会出場を決めました。中学校から新体操を始めたという8人。大舞台での飛躍が期待されます。

秋の風物詩すきほぜまつり ほぜっこ相撲に会場にぎわう

11月3日、本庄川河川敷広場で五穀豊穡を祝うすきほぜまつりが開催されました。恒例のほぜっこ相撲には、須木小、東方小、永久津小から約40人が出場。小さな力士たちの手に汗握る熱戦に歓声が響きました。まつり会場では須木地区の特産品や飲食物の販売、ステージイベントなどが催され、多くの家族連れでにぎわいました。



今年から女子の部が新設されたほぜっこ相撲。子どもたちは、地元建設業の人がボランティアで手作りした本格的な土俵で、力と技を競い合いました

4年ぶり開催のシルバーフェスタ 事業の普及啓発と日頃の感謝伝える

10月29日、小林市シルバー人材センター（小久保信雄理事長）が駅横ふれあい広場で「シルバーフェスタ」を開催しました。10月のシルバー人材センター事業の普及啓発月間に合わせ、事業の普及や日頃の感謝を伝えることを目的に開催しているもので、開催は4年ぶり。出店やステージイベントを楽しむ家族連れでにぎわいました。



前日の10月28日には、恒例の奉仕作業を実施。シルバー人材センター会員ら225人が21班に分かれ、市内各地の通学路などの美化作業を行いました

未来を担う子どもたちへ 坂口建設(株)と(株)三共がランドセル寄贈



松岡代表は「昨年はランドセルを受け取った子から手紙をもらい、継続への励みになった。今後も寄贈を続けられるようがんばりたい」と話していました

10月31日、坂口建設株式会社（松岡重孝代表取締役）と株式会社三共（外村公明代表取締役）が市にランドセル4つを寄贈しました。さまざまな理由で生活が困難な世帯へランドセルを贈ろうと平成28年から続けている取り組みで、今年で8回目。ランドセルは、支援団体などを通じて来春から小学校に通う子どもたちに届けられます。

県畜産共進会枝肉の部で (有)馬場牧場がグランドチャンピオン



グランドチャンピオンに輝いた(有)馬場牧場の馬場さん親子（写真右馬場幸成さん、写真左馬場大祐さん）。農林水産大臣賞もあわせて受賞しました

10月24日、(株)ミヤチク高崎工場（都城市）で「第64回宮崎県畜産共進会」の枝肉の部が開催されました。肉質を競う同部には、県内から100頭の肉牛枝肉が出品。審査の結果、有限会社馬場牧場が2大会連続でグランドチャンピオンを獲得しました。また、森田静夫さんが優等6席、大山和夫さんが特別賞（脂質賞）を受賞しました。

栗須保育園民営化に関する協定を締結

10月28日、市と(社福)こばと福祉会（池上あずさ理事長）は、栗須保育園の民営化に関する協定を締結しました。栗須保育園は来年4月1日から民営化予定。移管により同会の豊富な知識や経験が活かされることで、良質で高度な教育・保育の確保が見込まれます。



県人会世界大会参加者が生駒高原を満喫

10月27日～29日、県出身者などをつくる宮崎県人会の世界大会が開かれました。戦前に移住者の多かった南米などを含め国内外に35団体が設置される県人会。28日・29日には参加者計73人がふるさと巡りツアーで生駒高原を訪れ、コスモスの咲く園内を散策しました。



小林中学校でVR（仮想現実）授業 生徒ら先端技術の活用方法を探る

10月23日、24日に小林中で市と連携協定を結ぶ東京大学先端科学技術研究センターの登嶋健太さんを講師に迎えたVR*体験授業が開催されました。登嶋さんは「旅行の疑似体験は介護現場などでもよこばれている」と実際の活用事例を紹介。生徒たちはVR映像を撮影できるカメラを実際に使用し、その活用方法について研究を深めました。



*VRとは、Virtual Realityの略でコンピューターによって創り出された仮想的な空間などを現実であるかのように疑似体験できる仕組みのこと

小林はなまち会がシニアパワー章受章

10月20日、高齢者の知識や経験などを活かした活動を行う団体として、小林はなまち会（松田藤男会長）が「みやざきシニアパワー章」を受章しました。同会は、花があふれる魅力ある地域を目指し、設立以来23年にわたり市内各所で植栽活動を続けています。



9チーム約60人が卓球バレーで交流

10月22日、県卓球バレー秋季大会が中央公民館でありました。卓球バレーは、6人1チームで、音の鳴るピンポン球をバレーボールのように打ち合うもの。障がい者の社会参加促進と参加者が交流を深めることを目的に開かれ、9チーム約60人が競技を楽しみました。



ランタンやミラーボールで装飾 不思議な世界観「まつり仲町」



会場には子どもたちも楽しめるようにと緑日コーナーや、バスケットボールとハンドボールの体験などでもできるキッズエリアも設けられました

11月11日、第2回まつり仲町2023が開催されました。これは、コロナ禍でにぎわいの減った繁華街を盛り上げようと、仲町の飲食店主らが企画したものです。「ネオン街の魔法の時間」をテーマに会場周辺はランタンやミラーボールなどで装飾。飲食物の販売や「歌うま王決定戦」と題された特色あるステージイベントでにぎわいました。

ふれあいの里の資源回収活動に感謝状

社会福祉法人燦燦会ふれあいの里が、アルミ缶リサイクル協会のアルミ缶一般回収協力者表彰で優秀賞を受賞しました。



同施設は市民が持ち込むアルミ缶などの資源を回収・リサイクルする活動を平成4年から実施。長年の活動が評価され、県内で唯一の受賞となりました。

コミュニティ助成事業で備品を整備

野尻地区のみかんやまスマイル会議が（一財）自治総合センター宝くじ社会貢献広報事業「コミュニティ助成事業」の助成を受けてテントや刈払機、音響機材などを整備しました。



助成金は宝くじの受託事業収入を財源とし、全国で社会のために役立てられています。

東方中とこすもす支援学校中学部 パラスポーツで交流を深める

11月7日、東方中学校体育館でパラスポーツ交流会が開かれました。コロナ禍で交流の難しかった東方中学校と小林こすもす支援学校中学部、両校生徒の親睦を深めることを目的に開催。生徒らは9つのグループに分かれ、障がい者スポーツの中でポピュラーな競技、ボッチャとフライングディスクの2競技で親睦を深めました。



当日は東方中学校のPTA参観日にも設定されており、子どもたちから大人まで、地域ぐるみで共生社会への理解を深めました

介護予防などの健康づくりに活用 シン・こばやしパワーアップ体操



参加者らは、講師の萩元博子さんとこすもすの実演に合わせて体操を体験。シン・こばやしパワーアップ体操は市公式Youtubeから視聴できます

11月18日、介護予防活動などの健康づくりを目的に作成した、シン・こばやしパワーアップ体操お披露目会が中央公民館で行われました。体操は日常でよく使う足の筋肉を鍛える動きなどをまとめたもので、理学療法士の協力を得て生活支援コーディネーターを中心としたプロジェクトチームが作成。市内の通いの場での活用が期待されます。

ポスターで健康の大切さと小林市の魅力を表現 健幸のまちづくりポスターコンクールの最優秀受賞者を表彰



写真⑤ 白尾香織和さん、写真⑥ 山下盟母さん

小学生の部最優秀賞



紙屋小学校1年
しらおかりな
白尾香織和さん

中学生の部最優秀賞



野尻中学校1年
やましためい
山下盟母さん

ポスター⑤ 絵を描くのが好きだという白尾さん。大きなハートの中にこすもすや家族、ペットを描きました。「色塗りが難しく、3日かけて描きました。こすもすが特に難しかったです。」

ポスター⑥ 山下さんは小学5年生のときに小学校の部で最優秀賞を受賞。今回は小林市の地図の中に生駒高原やすきむらんど、のじりこびあなどの観光地を描き、その周りを歩く人たちを描きました。「一番工夫したのはままこ滝の水の表現。健幸のために、観光地を楽しみながら歩いてほしいという想いを込めました。」

今年も市内小・中学生を対象に、「健幸のまちづくり」の啓発ポスターコンクールを開催しました。同コンクールは、生活の基本となる「健康」の重要性について自ら考え、健康づくりへの積極的な取り組みを啓発するために実施。今年度は596点（小学校326点、中学校270点）の応募があり、健康の大切さと小林市の魅力を力強く表現した入

賞作品20点を選出しました。

11月1日には表彰式が開かれ、最優秀賞の2人（小学校の部・中学校の部から各1人）が表彰されました。入賞作品は小林市総合文化祭などで展示されたほか、最優秀作品については、今後「健幸のまちづくり」の啓発用ポスターとして市内公共施設などに掲示し活用されます。

すきむらんど周辺で地質など歩いて学ぶ

11月3日、須木地区のすきむらんど周辺で「霧島ジオ散歩」がありました。須木地区で認定地域が重なる霧島ジオパークと綾ユネスコエコパークの連携で開かれ、参加者12人はガイドと一緒に歩き、解説を聞きながら、植生や地質について学びました。



ハーブを使ったグルメなど満喫

11月5日、ハーブを身近に感じてもらうと、野尻地区の葉草・地域作物センターで「NOJIRIハーブマルシェ」が開かれました。令和元年開催の「ハーブ祭」から名前を改め4年ぶりに開催。来場者は、ハーブを使ったグルメやハーブ園の見学などを楽しみました。



文化の秋に日頃の活動の成果を発表 芸術の祭典「小林市総合文化祭」

10月29日、11月3日、4日、5日に、市総合文化祭が文化会館、中央公民館、市民体育館、野尻町農村環境改善センターで開催されました。絵画や書道などが並ぶ作品展や、芸能祭、音楽祭などが行われ、参加者は日ごろの活動の成果を披露。期間中は延べ5千人以上が会場を訪れ、作品や音楽、芸能などをおとして文化の秋を堪能しました。



1 市民体育館で作品を鑑賞する来場者 2 ハーモニカや吹奏楽の演奏などが行われた音楽祭 3 フラダンスや日本舞踊などが披露された芸能祭